

2024年2月1日発行
V05L22R1


ES/1 NEO

CSシリーズ

V05L22R1

Release News Letter

機能修正

 株式会社 アイ・アイ・エム

改版履歴

日付	版数	内容
2024/02/01	1	V05L22R1 リリース

目次

第 1 章	CS-MAGIC	1
1.1.	機能修正	1
1.1.1.	複合グラフの縦棒が集合縦棒にならず積み上げ縦棒になってしまうことがある	1
第 2 章	CS-DB2	2
2.1.	機能変更	2
2.1.1.	UDB snapshot monitor agent の導入について	2
2.2.	機能修正	3
2.2.1.	sqlenops API の引数を初期化	3
2.2.2.	udbagtx メッセージ "node directory is empty" のメッセージレベルを変更	4
第 3 章	CS-Java	5
3.1.	機能修正	5
3.1.1.	「前回値保存ファイルの作成処理に失敗しました」エラーが発生することがある	5
3.1.2.	WebSphere サブレット毎の起動回数に正しい値が格納されないことがある	6
第 4 章	CS-VMware	7
4.1.	機能変更	7
4.1.1.	vSphere クラスタサービスが生成する vCLS 仮想マシンの取り扱いを変更	7
4.2.	機能修正	8
4.2.1.	CS-VMware で統計情報収集に失敗する	8
第 5 章	CS-AWS	9
5.1.	機能修正	9
5.1.1.	EBS ボリューム毎の平均読み込み/書き込み待ち時間のクエリーに誤り	9
第 6 章	CS-REPORT	10
6.1.	機能修正	10
6.1.1.	グラフが正しく貼り付かないことがある	10
第 7 章	CS-Utility	11
7.1.	cslogcpy / csinicpy	11
7.1.1.	CS-AWS のログ情報や設定情報が取得できない	11
第 8 章	変更一覧	12
8.1.	本リリースより、出力される値（数値／文字列）、表示の変更一覧	12
8.1.1.	変更一覧	12

第1章 CS-MAGIC

1.1. 機能修正

1.1.1. 複合グラフの縦棒が集合縦棒にならず積み上げ縦棒になってしまうことがある

	分類	数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

複合グラフの縦棒部分を集合縦棒にする指定のグラフを作成した時、縦棒部分が集合縦棒にならず、積み上げ縦棒グラフになってしまうことがあります。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L11R1～V05L21R2
 条件 : 「Microsoft Excel の使用を最小限としグラフを作成する」が選択されている。
 縦棒を含む複合グラフである。
 縦棒は集合縦棒を指定している。

○原因

複合グラフの各系列の形態を制御するロジックに誤りがありました。

○対応

指定された形態のグラフ(集合縦棒グラフ)が正しく作成されるように修正しました。

第2章 CS-DB2

2.1. 機能変更

2.1.1. UDB snapshot monitor agent の導入について

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○概要

UDB snapshot monitor agent の導入方法が変更となりました。

これまで DB2 が導入されているサーバ内にデータ収集モジュールを内蔵させてパフォーマンスデータを取得する、ローカル収集型の場合、セットアップ媒体からのファイルコピーで UDB snapshot monitor agent を導入することが可能でした。

本リリースより、これを廃止し、リモート収集型と同様に、インストーラから UDB snapshot monitor agent を導入いただくこととなりました。

○理由

セットアップ媒体からのファイルコピーで UDB snapshot monitor agent を導入した場合、UDB snapshot monitor agent configuration assistant の動作に必要な Microsoft 製ランタイムライブラリが導入されません。

このため、インストーラから導入を実施していただき、必要な Microsoft 製ランタイムライブラリが動作環境に配置されるようになります。

2.2. 機能修正

2.2.1. sqlenops API の引数を初期化

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	—	—	—

○現象

DB2 の node directory を定義しない状態で udbagtx を実行したとき、ノード・ディレクトリのスキャンを行う sqlenops API の結果に意図しない値が返されることがあります。その結果、以降の処理において Segmentation fault が発生します。

○発生条件

ES/1 バージョン : リリース初版～V05L21R2
 条件 : udbagtx の処理対象とする DB2 の node directory 定義がされていないこと。かつ udbagtx をローカル接続で実行。

○原因

変数に初期値が設定されていませんでした。

○対応

sqlenops API に渡す引数に初期値を設定するようにしました。
 なお、上記変更による影響はありません。

2.2.2. udbagtx メッセージ “node directory is empty”のメッセージレベルを変更

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

ノード・ディレクトリのスキャン結果の異常を報告する下記メッセージのメッセージレベルが誤っていました。

“STOP シーケンシャル番号 node directory is empty.[sqlcode:SQL エラーコード]”

○発生条件

ES/1 バージョン : リリース初版～V05L21R2

条件 : udbagtx の処理対象とする DB2 の node directory 定義がされていないこと。かつ udbagtx をローカル接続で実行。

○原因

処理継続が可能なため“WARN”とすべきところ、“STOP”と表示していました。

○対応

メッセージレベルを“WARN”に変更しました。

(修正前) “STOP シーケンシャル番号 node directory is empty.[sqlcode:SQL エラーコード]”

(修正後) “WARN シーケンシャル番号 node directory is empty.[sqlcode:SQL エラーコード]”

第3章 CS-Java

3.1. 機能修正

3.1.1. 「前回値保存ファイルの作成処理に失敗しました」エラーが発生することがある

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

CS-Java で「前回値保存ファイルの作成処理に失敗しました」エラーが発生することがあります。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L11R1～V05L21R2

条件 : データに時間的な連続性が無い環境でタイミングにより発生することがある。

○原因

CS-Java ではデータの差分値計算をおこなっており、前回値をファイルに保存しています。

このファイルに差分対象よりも古いデータが残ってしまうと、ファイルサイズが増加してしまうため、古い時刻のデータをクリーンアップしています。

この際に、差分計算を行う処理ループの中で、古いデータを削除していたため、配列のインデックスがずれてしまうことがあり、Exception が発生していました。

○対応

差分計算を行う処理ループの中では、削除対象の古いデータにチェックをつけるだけにしておき、実際の削除はループの外で実施するよう処理を変更しました。

3.1.2. WebSphere サブレット毎の起動回数に正しい値が格納されない場合がある

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

WebSphere サブレット毎の起動回数に正しい値が入ってこない場合があります。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L11R1～V05L21R2

条件 : CS-Java for WebSphere を使用している環境で、サブレットの名前が「WebModule 名」と「Servlet 名」だけではユニークにならない場合

○原因

WebSphere のサブレット情報は、下記のフィールド名でユニークになると考えていましたが、環境によって「アプリケーション名」を加味しないとユニークとならないケースがあり、性能データの差分値計算に誤りが生じていました。

- セル名
- ノード名
- プロセス名
- WebModule 名
- Servlet 名

○対応

性能データの差分値計算の際に、ユニークとなるキー項目として「アプリケーション名」を追加しました。

第4章 CS-VMware

4.1. 機能変更

4.1.1. vSphere クラスタサービスが生成する vCLS 仮想マシンの取り扱いを変更

分類	数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	●	-

○概要

CS-MAGIC のインスタンスプロファイルを解決するために、中間フラットファイルのインポート時にホスト名(仮想マシン名)をタグ情報として抽出し保存しています。

vSphere7.0 Update3 以降でデフォルトとなった vSphere クラスタサービス(vCLS)が動作すると、vCLS 仮想マシンが大量に生成される場合があります。vCLS 仮想マシンが大量に生成されると、タグ情報の生成に時間が掛かるようになり、インポート時間が増大することがあります。

○対応

vCLS 仮想マシンについてはタグ情報を生成しないよう変更しました。

トラブルシューティング的に vCLS 仮想マシンをターゲットとしたグラフを作成する場合は、インスタンスプロファイルを使用せず、直接 vCLS 仮想マシン名を指定します。

4.2. 機能修正

4.2.1. CS-VMware で統計情報収集に失敗する

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	—	—	—

○現象

CS-VMware で統計情報収集に失敗して統計情報が収集されない問題がありました。

収集対象の vCenter 環境上に、ネットワーク構成が未完了となっている仮想マシンがある場合、CS-VMware の統計情報収集時にエラーが生じていました。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L19R1～V05L21R2

条件 : ・CS-VMware オプションを使用

・収集対象の vCenter 上にネットワーク構成が中途段階となっている仮想マシンが存在している

○原因

CS-VMware で統計情報の収集時には下の 2 つのステップから行います。

1. 対象の vCenter 環境上の収集対象となる ESX や仮想マシンなどの各管理要素を列挙する
2. 各管理要素に対して性能情報の取得クエリを発行し、統計情報を取得する

今回、1 の管理要素の列挙処理の処理にて、構成変更が未完了状態の仮想マシンがあった際にエラーが生じており、これが要因で統計情報の取得が行われていませんでした。

○対応

CS-VMware の統計情報の収集処理のロジックを修正しました。

第5章 CS-AWS

5.1. 機能修正

5.1.1. EBS ボリューム毎の平均読み込み/書き込み待ち時間のクエリに誤り

分類	数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	●	-

○現象

下記のクエリで、平均ではなく全操作の合計時間が出力されていました。

[詳細]EBS ボリューム毎の平均書き込み待ち時間 -折れ線-

[詳細]EBS ボリューム毎の平均読み込み待ち時間 -折れ線-

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L17R1～V05L21R2

○原因

クエリが誤っていました。

○対応

1つの操作における平均待ち時間を出力するように修正しました。

第6章 CS-REPORT

6.1. 機能修正

6.1.1. グラフが正しく貼り付かない場合がある

分類	数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-

○現象

Microsoft Excel のグラフを Microsoft Word の報告書に貼り付けた際、非常に小さいサイズでグラフが貼り付くため、グラフが貼り付いてないように見える場合があります。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L20R2～V05L21R2
条件 : Microsoft Office 2019 以降を使用

○原因

Microsoft Office 2019 をサポートした際、対応が不十分なロジックがありました。

○対応

ロジックを修正し、グラフが正しいサイズで貼り付けられるようにしました。

第7章 CS-Utility

7.1. cslogcpy / csnicpy

7.1.1. CS-AWS のログ情報や設定情報が取得できない

分類		数値変更	表示変更	特記事項
機能変更	機能修正	-	-	-

○現象

ログファイル収集ツール（cslogcpy）や、設定ファイル収集ツール（csnicpy）で CS-AWS のログ情報や設定情報が取得できない問題が発生していました。

○発生条件

ES/1 バージョン : V05L11R1～V05L21R2
 条件 : CS-AWS を使用している環境で、ログファイル収集ツール（cslogcpy）や、設定ファイル収集ツール（csnicpy）を実行する。

○原因

CS-AWS レジストリへのアクセスに失敗しファイルの収集ができていませんでした。

○対応

アクセス可能なレジストリからパス情報を所得することで、ファイルの収集ができるように修正しました。

第8章 変更一覧

8.1. 本リリースより、出力される値（数値／文字列）、表示の変更一覧

8.1.1. 変更一覧

数値変更	表示変更	プロダクト	内容
		CS-MAGIC	複合グラフの縦棒が集合縦棒にならず積み上げ縦棒になってしまうことがある
		CS-DB2	UDB snapshot monitor agent の導入について
		CS-DB2	sqlenops API の引数を初期化
		CS-DB2	udbagtx メッセージ "node directory is empty"のメッセージレベルを変更
		CS-Java	「前回値保存ファイルの作成処理に失敗しました」エラーが発生することがある
		CS-Java	WebSphere サブレット毎の起動回数に正しい値が格納されない場合がある
●		CS-VMware	vSphere クラスターサービスが生成する vCLS 仮想マシンの取り扱いを変更
		CS-VMware	CS-VMware で統計情報収集に失敗する
●		CS-AWS	EBS ボリューム毎の平均読み込み/書き込み待ち時間のクエリーに誤り
		CS-REPORT	グラフが正しく貼り付かない場合がある
		CS-Utility	CS-AWS のログ情報や設定情報が取得できない

数値変更 : 本バージョンの適用により、出力される値（数値/文字列）に変更がある場合に●が付きます。

表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます。